

分科会 A

知識・技能の定着と、教科横断的で汎用的なスキルの育成をめざして

コーディネーター： 小林直樹（岐聖大）

コメンテーター： 伏木久始（信州大）・久野弘幸（名古屋大）、芳賀高洋（岐聖大）

この分科会の趣旨

1. 本分科会の目的

本分科会の目的は、授業のしくみを多様に編成することを通して、どのように子ども一人ひとりに応じた学びを実現していくのか、またそれを通してどのように（な）知識・技能の形成を図ることができるのかについて、6つの話題提供や指定報告から参加者の私たちが考え、深め合うことである。以下、文責者が勝手に設定した各発表の「聞き所」を示すので、皆さんも自分の聞き所を持って発表を聞き、考えを深めて頂きたい。

2. 本分科会の構成

(1) 岐阜聖徳学園大学附属小・小林永児（話題提供①A-1）

聞き所：箏で音階をつくる活動から弦の長さと言程を捉え、長さと言高低を算数に置き換えて考える音楽と言算数と言の統合型学習。両教科が本質でつながるとどうなるだろうか。

(2) 岐阜聖徳学園大学附属小・岡村佳宏（話題提供①A-2）

聞き所：一斉授業における個の意欲と言子ども通しの関わり、それを支える教師の役割が焦点。子どもが個で、また共に学ぶ力をどのように見取り、見守り、働きかけるとよいか。

(3) 岐阜聖徳学園大学附属小・山崎 優（話題提供①A-3）

聞き所：6年社会における「意欲」と「計画性」を焦点化。6年生の後半、岐聖大附小の総合力が試される。自ら学びを計画し、自ら深めていく子どもの姿が見られただろうか。

(4) 岐阜聖徳学園大学附属中・小椋幸美（話題提供①A-4）

聞き所：中学国語の一人学び。ポイントは、与えられたテーマを自分のテーマに仕立てていく場面と、探究的な学びの中で、汎用スキルが学びを促進する場面の2点にあるか。

(5) 愛教大附岡小・伊倉 剛（指定発表②A-1）

聞き所：中学3年の社会科。文科省教育課程研究指定を受けての実践。主題に向き合い、聴き合い考え合う蓄積をしてきた生徒たちが、関わりの中で主題をどう掘り下げるのか。

(6) 信州大学附属松本中学校・中田雄大（指定発表②A-2）

聞き所：「私の問いを深め、学びの探究者となる教科の総合化」と「地域や社会の『もの』や『ひと』につながる学級総合」を柱にした研究。体験と言思考をつなぐ実践とは。

3. 本分科会で予想される論点

初日の4本は、教科センター方式、個別化／個性化方式を導入している新進の附属学校からの実践報告であり、2日目の2本の発表は、愛知と言長野において、子ども中心の授業に重きを置く伝統ある附属学校における実践である。この両者の対照性から私たちは、何を学ぶことができるのか。